廿九日 夕刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町 編輯兼發行人 岡田以成
福島縣石城郡平町紺屋町 印刷人
印刷所 加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町 發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
△日刊(日曜、祭日)休刊

平小鐵道路線の猛烈な奪取運動

片濱に對抗する鹿島村

平・小名濱は競爭を阻止

平小鐵道の建設は既報の如く明年度の測量設計に引き續き明年度から愈々着工することに決定したが、鹿島村經由の直通線とするか、片濱を廻る海岸線とするか未決定なので片濱廻りの沿線に當る高久村、豊間村、江名町の三村長は二十六日上京鐵道省に片濱廻り線に決定するよう陳情する處あつた旨既報の如くであるが、一方鹿島村でも同村經由するよう片濱廻り反對運動を行ふ筈で、平小鐵道の路線奪取運動が激烈を極めるものと見られてゐるので當の小名濱、平兩町ではこの運動の爲折角の平小鐵道も萬一フイになつてはと尠からず狼狽し兩線の奪取運動を阻止することになつた。

表彰さる

諸橋久太郎氏

平町諸橋久太郎氏は昭和五年九月同町立小學校基本財産へ金一千圓寄附した廉で今回文部省から褒賞を授與された。

公娼を廢止すれば私娼益々跋扈する

平貸座敷業關係で公娼廢止絕對反對聲明

平町鎌田町五色町遊廓大豆樓長谷川德城、甲子樓平野井子之松兩氏は二十八日仙臺に開かれた廢娼絕對反對を叫ぶ東北貸座敷業大會に出席し二十九日歸平したが、左の如く廢娼反對の聲明をなした。

近年人道論者なる外來思想に心醉せる徒輩續出し三百年來の傳統に洗練琢磨せる貸座敷業の社會的存在を否定し廢娼論を高唱しつゝあるを聞く、我等は斯る徒輩の認識不足の甚だしきを慨嘆せざるを得ず彼等は貸座敷營業の如何なるものなるかを知らず、一犬虛を吠へて萬犬之に和するの類にして我等毫も意に介せざるも一言反駁を加へざるを得ず

貸座敷業の社會的存在性は三百年の歷史是れを証し國家は法律を設けこれを保護し時代の推移と共に益々其の存在性を確實ならしめたり、然るに最近公娼廢止を實行せる縣二三出現せるもこれ等公娼制度の廢止せる縣は私娼著しく增加し社會に害毒を流すの弊に苦しみつゝあり、公娼廢止即ち私娼默認となるに於ては何等公娼存續と變るところなく却つて弊害を助長せしむるものなり。我々茲に私娼跋扈の排擊、公娼制度の存續、公娼希望の女子に對し現行法規の範圍内に於て許可し私娼に墮せんとする子女を極力防止せられんことを要望す。

凶作地から坑夫を募る

勿來町大日本炭礦勿來坑では出炭激增に備ふべく一石二鳥の策から凶作地から坑夫五十名を雇入るゝ事となり數日來各關係方面へ募集の依頼をなしてゐる。

植電恐喝事件 二十八日上告

植田水力電氣株式會社から一千圓を恐喝し宮城縣控訴院に於て懲役一年に處された內郷村綴綿引司馬之助(四二)平町正木正太郎(三四)平町松本清之丞(四二)の三名は東京花本、平眞木兩辯護士の手を經て二十八日大審院に上告した。

可憐な兒童に同情した篤志家

石城郡小名濱町野崎定行、柳内房吉兩氏は凶作地の可憐な兒童に同情し數名を預かつて養育したいと廿七日縣社會課に申込んだ。義務教育を修了させその成績によつては補習學校まで卒業させ將來は漁業家として立派に成人させてやるといふのである

▲悲慘な川前村

石城郡内で最も冷害の甚だしい川前村の最近の收獲豫想は作付百七十九町五段八畝六歩に對し六百八十七石で平年作の三割に過ぎず。これを人口三千八十七人の一ヶ月所要二百八十石に割りあてゝ見ると僅に今年は二ヶ月半といふ慘めな結果が生れるわけで、來年二月末からは米が皆無となる勘定である。殊に糯米は百六十俵の申請に對し九十八俵、政府拂下米は百六十俵に對し未だ何等の通牒さいないといふ状態で全く言語に絕するものである。

▲鈴木家で寄附

四倉町字新町鈴木糸次氏母トク(八〇)さん去る廿六日死亡遺言により同町小學校に金貳拾圓、消防組に參拾圓を寄附した。

▲中村消防幹部視察

相馬郡中村町消防組副組頭岸辰見氏外四名は昨二十八日四倉消防組を視察した。

煉瓦で頭を割る

職工同志の喧嘩

湯本町天王崎品川白煉瓦工場職工西田三郎(三二)は二十七日夜作業中同僚の木村尋一郎(三二)と仕事の事から口論し煉瓦で尋一郎の頭部を毆打し全治三週間の傷を負はせ二十八日平署に檢擧された。

義捐金は成る可く縣内へ

平町から醵出した凶作地義捐金は縣内に配る旨過般縣から通知があつたが、中には町役場を經ず他縣に送るものがあるので二十八日勞務部長から成る可く縣内に同情して欲しい旨通知があつた。

入除隊兵歡送迎會

四倉町昭和九年度入營兵及除隊兵の歡送迎會は來る十二月九日午前九時より同町鎮守諏訪神社々前で行ふ。

柳下、久保木兩君除隊

平町紺屋町四四柳下重雄君は來る三十日午後三時十七分着で仙臺砲兵第二聯隊より、胡麻澤一ノ七久保木徐次郎君は同日午後四時三十八分着で立川飛行兵第五聯隊より何れも除隊歸平する

▲四倉町會

四倉町會は二十九日午前九時より開會し四倉水産商業實踐學校の實習室新設費六百八十圓を七百圓に更正した。

▲大浦消防檢閱

大浦村消防組の秋季檢閱は來る十二月七日午前七時より同村小學校々庭に於て令旨の傳達式を兼ねて執行、終つて過般縣村兩道改修を行なつて授與された金馬簾一條の披露式を行ふ。

四倉海岸にサイレン

四倉漁業組合では工費四百五十余圓で同組合事務所前に三馬力のサイレンを設置し入船非常時の際に使用する筈で一里四方に響く。本月末日完成來月より使用する。

▲鰯の價格協定

四倉漁業組合では二十七日午前九時から船主並に肥料製造家の協議會を開き鰯の價格を協定した。

炭礦に潜伏

竊盜犯人

石川郡石川町石戸生れ前科二犯鈴木平三郎(三〇)は同地方で竊盜を働らき九月末内郷村磐城炭礦坑夫に住み込んでゐた事發覺二十七日平署に檢擧された。

女給生活に愛想をつかす

内郷村大字宮字野田一二留次郎二女菅野コト子(十七)は親の承諾を得ずに去る四月十九日群馬縣桐生市宮前一丁目カフエー業平間勝雄方へ前借四十一圓で女給に住み込んだが、最近女給生活に愛想をつかし親元に對し歸宅したいから金を送つて呉れと再三手紙を出したので留次郎は四十四圓を苦面し小爲替で送金した處コト子は何れかへ鞍替えしたのか送つた小爲替がそつくり平署に戻されたので平署ではその旨親元へ通知した。

▲刑余者悪事

小川村生れ鈴木乘義(二九)は去る九日懲役一年の刑を終えて福島刑務所を出たが石城に流れ込み小名濱町で自轉車及び船具二百貫價格二百圓の外郡内各地から三百圓分を竊取二十五日平署に檢擧された。

▲行商して義捐金

石城郡小名濱町實業補習校一年生比佐とよ、雨宮ふ子、小池清子、長瀬わか、の四女生は凶作地の兒童に同情し退校後申合せて數日間町内に豆腐と納豆の行商を續け得たる利益金二圓四錢を受持の西根訓導に差出したので職員一同に感涙を催さしめ同校では右生徒の心情を添えて早速凶作地へ贈つた。

▲前借金を着服

石城郡内郷村大字白水炭礦雜夫宮野わく(四一)は生活難から十月末長女とよ子(一八)を前借五百圓で平町三丁目料理業三島家へ酌婦に賣り更に本月十四日同家から同所水戸家へ六百圓で鞍替したところ水戸家の前借が七百三十八圓六十錢になつてゐるのでわくは二十四日平署に相談しに來た同署で取調べの結果同町大字宮モグリ桂庵遠藤政之助(五六)が介在し百三十余圓を着服した事判明該金を吐き出させると共に目下取調べ中である。

貸切の御用命は

尼子タクシーへ！

電話六四〇番

是非御願ひ致します

……遠乘は特に御相談に應じます

尼子タクシー

十一月廿一日限り

午后五時開演　聚樂館

前賣券發賣所

天地堂蓄音器店
會田時計店
金光堂時計店
常盤屋時計店

東都浪界未會有の顔合せ

廣澤虎造
東家樂遊丸
浪花亭辰ノ
浪華軒友勝
木村(重松改メ)重太郎
浪花亭綾

開業

中野歯科醫院

院長 日本歯科醫學士 中野惠次
日本歯科醫學士 西川誠

診療科目

一、歯科一般
保存科　補綴科　繼續架工科　歯列矯正科　小兒歯科　歯槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科

平町田町（松月堂向）
電話五〇九番

耳鼻咽喉科專門

平町田町（電六九一）

病室完備
自炊ノ便アリ

醫學士 山内醫院 山内亨吉

TAIRA
TELEPHONE
9

RESTAURANT.
TEA AND WINE
洋食　茶樂
コンパル
平町電六六六番

許允省藏大

斷然群ヲ拔ク

家共有非

かまぼこ製造
折詰焼
平町一丁目（電話一四一番）
れ惣菜用
さつま揚
吉原揚
天ぷら

十一月一日より
十一月七日まで

冬呉服大賣出し

この良品でこの安値！眞に有難い買德の冬呉服！
この賣出し大奉仕品豊富

御婚禮衣裳大提供

品		
おつとめ	新柄モス着尺	二圓八十錢
	紡織夜具地	八十八錢
	ニコ〳〵絣新柄	九十五錢
本場銘仙		二圓八十錢
新柄秩父夜具		三圓

友禪縮緬、富士絹友仙
新柄友仙モス、中巾丸帶
御袴、四ツ身紋

三井呉服店

外科　一般外科　內臟外科
性病科　X光線科

入院隨意（自炊の便あり）

元赤心堂病院
安齋外科醫院
電話四七五

磐城共濟病院

福島縣平町　電話六四一番

內科　院長 醫學博士 石山謙郎（電話六四一番）
小兒科　部長 岩手醫學士 平賀一忠
產婦人科　副院長 醫學博士 五十嵐雄二（電話三七〇番）
外科　部長 醫學士 坂本眞一郎
耳鼻咽喉科
皮膚泌尿科　部長 醫學士 前澤正（電話二七二番）
花柳病科
X光線科　醫學博士 石山謙郎
物療科　技術員 石山彪
衛生試驗所　獸醫 高後利雄
藥局　藥局長 藥劑士 吉本孝平
事務長 鈴木寶雄

每日午前八時ヨリ診察
夜間診療開始（每夜午後十時迄）
病室完備・入院隨意